

令和 3 年 7 月の解説（府県天気予報）

【7 月の天候状況】

上旬は、梅雨前線は本州付近に停滞し、北日本、東日本、西日本では曇りや雨の日が多かったため、北・東日本太平洋側の日照時間はかなり少なく、東日本日本海側と西日本で少なくなりました。1 日は伊豆諸島で線状降水帯が発生するなど、3 日ごろまでは東日本太平洋側を中心に大雨となり、土砂災害等の被害が発生した所がありました。東日本太平洋側の降水量は平年比 287%でかなり多く、7 月上旬として 1946 年の統計開始以降で 1 位の多雨となりました。また、7 日は鳥取県と島根県、10 日は鹿児島県で線状降水帯が発生し、7 日以降、西日本を中心に大雨となり、河川氾濫等の被害が発生した所がありました。東日本日本海側と西日本の降水量は多くなりました。西日本は 6 日ごろまでは太平洋高気圧の縁を回る暖かい空気が流れ込みやすく、平均気温は高くなりました。沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れた日が多く、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。2 日ごろには沖縄地方で、3 日ごろには奄美地方で梅雨明けしたとみられます(速報値)。

中旬は、北日本及び東日本と西日本日本海側では高気圧に覆われて晴れた日が多く、北日本と東日本日本海側の日照時間はかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側で多くなりました。北日本日本海側と北日本太平洋側の日照時間はそれぞれ平年比 208%と 196%で、7 月中旬として 1961 年の統計開始以降で 1 位の多照となりました。北日本では 17 日以降、猛暑日を観測する地点があるなど、平均気温はかなり高くなりました。また、北日本の降水量はかなり少なく、東・西日本日本海側で少なくなりました。太平洋高気圧は日本の東から本州付近にゆっくりと張り出したため、西日本太平洋側は高気圧の南側となり東から流入する湿った空気の影響を受けやすく、降水量は多くなりました。梅雨前線は次第に不明瞭となりましたが、本州付近は期間の半ばまでは上空の寒気の影響を受け、大気の状態が不安定となった所がありました。上空の寒気の影響は次第に縮小し、11 日ごろには九州南部で、13 日ごろには九州北部地方と中国地方で、14 日ごろには北陸地方で、16 日ごろには関東甲信地方と東北南部と東北北部で、17 日ごろには近畿地方と東海地方で、19 日ごろには四国地方で梅雨明けしたとみられます(速報値)。沖縄・奄美は 18 日ごろまでは太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、19 日以降、台風第 6 号が沖縄地方に接近して曇りや雨となり、平均気温、降水量、日照時間ともに平年並となりました。

下旬は、北日本、東日本、西日本では、26 日頃までは高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、28 日に台風第 8 号が東北地方に上陸して横断し、北日本や東日本日本海側では曇りや雨となりました。北・東日本日本海側と西日本の日照時間はかなり多く、北・東日本太平洋側で多くなりました。北日本日本海側の日照時間は平年比 191%で、7 月下旬として 1961 年の統計開始以降で 1 位の多照となりました。北日本日本海側と西日本の降水量はかなり少なく、北日本太平洋側で少なくなりました。北日本の平均気温は平年差+3.0℃でかなり高く、7 月下旬として 1946 年の統計開始以降で 1 位の高温となり、猛暑日を観測した地点もありました。沖縄・奄美では 21 日から 24 日にかけて台風第 6 号が沖縄地方にゆっくり接近し、台風の影響が長時間に渡ったため、曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美の平均気温はかなり低く、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なくなりました。

【7 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)と同じ 80%で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 78%でした。地方別の適中率では、明日予報は、北海道、東北、関東甲信、北陸、沖縄の各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、北海道、東北、関東甲信、北陸、中国、九州北部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4℃小さい 1.4℃で、北海道、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、九州北部、九州南部の各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.0℃で、九州南部

地方を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の天気予報の利用にあたって】

9月は、強い勢力の台風が日本に接近・上陸しやすい月です。また、日本付近に前線が停滞していると台風がまだ遠くにある頃から大雨となることもあります。台風が日本付近に接近・上陸すると予想されている場合には、最新の台風情報や警報・注意報など気象情報に十分留意して下さい。